

人権学習展開例

第2学年

- 主題名 発達障害のある人との関わり方
- 教材名 お互いを理解しよう ～発達障害のある友だちとのより良い関わり方～
- 人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」
- 主題・教材について

平成24年に文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果では、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、約6.5パーセント程度の割合で通常の学級に在籍している可能性が示された。発達障害の特性を有する生徒は、学習面や対人関係などでの課題を抱えながら日々の学校生活を過ごしていることが多い。

本教材では、発達障害のある生徒が抱えている実際の悩みについて考え、知ることにより、見た目には分からない障害がある人の立場に立ち、自分の関わり方や環境の改善について考え、行動できるように導いていきたい。

●ねらい

発達障害の特性を理解し、相手のことをよく考えて、より良く関わろうとする意欲・態度を身に付けさせる。

●関連する教材

人権学習資料集〈小学校編Ⅳ〉「8 なにかできるかな?なにかができるかな?」(第3・4学年用)

人権学習資料集〈小学校編Ⅳ〉「9 見た目だけでは分からないけど 知っていた?」(第5・6学年用)

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	生活の中で繰り返しやってしまう失敗や直したい行動を考えてみよう。				
	○自分の「苦手なこと」を考えさせる。	個別 グループ	○生活の中で繰り返しやってしまう失敗や直したい行動を考え、ワークシート①に記入する。 ○自分の生活の中で繰り返しやってしまう失敗や直したい行動をグループで交流する。	○一人一人、生活の中で繰り返しやってしまう失敗や直したい行動があることを意識させる。	ワークシート①
	お互いが気持ちよく生活していくために必要なことは何かを考えよう。				
	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時の学習課題を知る。	○お互いが気持ちよく生活していくために必要なことは何かを考えることを学習課題とする。	

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	3人がどんなことに困り、どんな思いでいるかを考えよう。				
	○3人がどんなことに困り、どんな思いでいるかを考えさせる。	一斉	○提示資料を見て、Aさん、Bさん、Cさんのそれぞれの思いについて考える。	○特定の生徒のことをからかうようなことにつながらないように注意すること。	提示資料①②③
	○3人の苦手なことを考えさせる。	個別	○3人の苦手なことを考え、ワークシート①に記入する。 Aさん ・集中して取り組むこと ・メモをすること など Bさん ・相手の気持ちを考えること ・空気を読むこと など Cくん ・我慢すること ・言葉で説明すること など	○資料から3人の自身の行動に対する思いや悩みに気付かせ、悪気があって忘れ物をしたり、人を傷つけたりしているのではないことを理解させる。 ○資料のケース以外の場面でも困っていることがあるのではないかと、問いかけて想像させる。 ○「自分の責任」などと否定的な意見も出てくることが想定されるが、障害の特性を学んだ後の意識の変化へとつなげていく。	
発達障害とはどういうものを理解しよう。					
○3人の特性を理解させる。			○得意なことや苦手なことは誰にでもあるものであるが、発達障害があるとされる人は、その差が非常に大きく、そのために生活に支障をきたしやすい状態であることを理解する。 ○障害のために「できない」のではなく、周囲の支援や配慮によってできるようになることがあることを理解する。	○ここでは注意欠陥多動性障害(ADHD)を想定しているが、障害の特性について詳しく説明することを目的とはしない。 ○自分の困っていることが理解できていても、それを克服することが難しいことを理解させる。 ○「できないこと・苦手なこと」＝「障害」という理解にならないようにする。	
困っていることに対して、どんな関わり方ができるのかを考えよう。					
○困っていることに対してどのような関わり方ができるのかを考えさせる。	個別	○3人にどのような関わり方をするのかを考え、ワークシート②に記入する。 Aくん ・忘れ物を一緒に確認する。 ・他のクラスの人と一緒に借りに行く。 など Bくん ・それは言わない方がいいと思うと伝える。 ・そんなことを言われると、悲しいからやめると伝える。 など Cくん ・痛いからたたくのはやめと伝える。 ・なぜ、たたくのかを聞く。 など	○お互いが気持ちよく過ごせるようにするための関わり方を考えさせる。 ○あくまでも一人一人の特性に応じた支援や配慮をすることが大切であり、決まった形があるわけではないことに留意する。	ワークシート②	

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展 開	○みんなが気持ちよく過ごすためにどうすれば良いか考えさせる。	グループ	○各自の考えを、グループで交流し、発表する。	○いろいろな人の意見を聞くことで、考えに広がりを持たせる。	
		個別	○みんなが気持ちよく過ごせるためには、どうすれば良いのかを考える。 ・相手の気持ちを考える。 ・何かあったときには、理由を考える。 ・困っている人がいたら、みんなで声をかける ・すぐに怒ったりしない ・何度も繰り返し声をかけるなど	○生徒から多様な意見が出てくるのが想定されるが、集団の中で全員が気持ちよく過ごすために必要なことを考えさせ、お互いを支援しあえるよう方向付ける。 ○相手の気持ちを理解しようと考えることが大切であることを理解させる。 ○障害の有無にかかわらず、困っていると感じている人を支え合うことが大切であることを理解させる。	
ま と め	○本時の学習を振り返らせる。	個人	○学習を通じて、思ったこと、感じたことをワークシート②に記入する。		

お互いが気持ちよく生活できるために大切なことを考えよう。

●評価

発達障害の特性を理解し、相手のことをよく考えて、より良く関わろうとしているか。

<指導上の留意点>

本教材は、発達障害に見られる特性の理解のもと、生徒同士がどのように関わっていくことが大切なのかを考える教材です。学級内には様々な特性を有する生徒が在籍しており、例として取り扱う特性や登場人物等の設定及び授業展開については、学級、生徒の状況や保護者の思いに留意し、障害に関する知識や授業のねらいについて、指導者が十分理解した上で実施する必要があります。

同時に人権学習の視点として、障害のために「できない」のではなく、別の方法で「できるようになる」という視点や、一人一人には違いがあり、特性を活かし優れた能力を発揮できることなど、特性のプラスの面に気付かせることが大切です。

大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、誰もが自分らしく生きていけるということです。